

# 小山実稚恵の ピアノニズム

大阪リサイタルシリーズ

2025のテーマ  
「永遠の命」

デビュー40周年記念  
ベートーヴェン  
「最後の3大ソナタ」  
を一挙に

2025  
4/26<sup>土</sup> 14:00  
住友生命いずみホール

S席 6,000円  
プレミアムS席 6,500円  
A席 5,500円(全席指定、税込)

大阪新音会員 S席 5,500円  
プレミアムS席 6,000円  
A席 5,000円  
※未就学児童の入場はできません。

●チケット販売所

大阪新音 ☎ 06-6926-4888 (11:00~17:00 ※主催催しの開催日は~15:00  
※土・日・祝日 および毎月第1・第3月曜休業)

住友生命いずみホール チケットセンター

☎ 06-6944-1188 (10:30~17:00 ※日・祝日休業)

主催(お問い合わせ先)

大阪市北区西天満4-6-14 イーデザインビル201 (〒530-0047)  
☎ 06-6926-4888 (11:00~17:00) ※主催催しの開催日は~15:00 ※土・日・祝日 および毎月第1・第3月曜休業

協賛:住友生命いずみホール(〈一財〉住友生命福祉文化財団)

ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ第30番  
ホ長調 作品109

ピアノ・ソナタ第31番  
変イ長調 作品110

ピアノ・ソナタ第32番  
ハ短調 作品111

チケットぴあ (Pコード:275-389)  
ローソンチケット (Lコード:54255)  
e+ (イープラス)

催し・最新情報は  
こちらから

大阪新音 Webサイト  
<https://osaka-shinon.com>



©Hideki Otsuka

小山 実稚恵 (こやま・みちえ)

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクールの2大コンクールに入賞以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽と、常に第一線で活躍し続けています。

2006年から2017年まで、大阪・東京をはじめ全国6都市で行われた12年間・24回リサイタルシリーズ「ピアノ・ロマンの旅」は、演奏と企画性が高く評価されました(その成果により、大阪では2018年度の大阪市市民表彰を受けています)。続いて2019~22年には「ベートーヴェン、そして…」シリーズ演奏会を行いました。

これまでに国内外の主要オーケストラ、および国際的に著名な指揮者ら多数と共演しています。協奏曲のレパートリーは60曲を超えます。

東日本大震災以降、被災地支援活動として演奏会を行い、また仙台では「未来を担う子どもたちが本物と出会う機会」にと、自ら企画・主宰する「こどもの夢ひろば“ボレロ”」(写真下=2024年8月)を開催しています。



CDはソニー・ミュージックジャパンインターナショナルと専属契約を結び、これまでに33枚をリリース。近作の2つのベートーヴェン・アルバム『ハンマークラヴィア・ソナタ他』(2020年)と『ピアノ・ソナタ第30、31、32番』(2021年)は、深化するピアノニズムが大きな話題を集めました。さらに2023年5月にリリースされた最新アルバム『モノログ』まで7作連続して「レコード芸術」特選盤に選ばれる快挙を遂げました。

著書に『点と魂と』(KADOKAWA)、平野昭氏との共著による『ベートーヴェンとピアノ「傑作の森」への道のり』と『ベートーヴェンとピアノ 限りなき創造の高みへ』(いずれも音楽之友社)があります。

2005年度文化庁芸術祭大賞、13年度東燃ゼネラル音楽賞本賞、15年度文化庁芸術祭優秀賞、16年度芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞。17年度、紫綬褒章を受章しています。

魂は高揚し さらなる高みへ

さて、最後の32番ですが…

小山 第32番(1822年完成)は文字どおり、ベートーヴェンのピアノ・ソナタの最後を飾る傑作です。他のピアノ・ソナタにはない2楽章構成です。ハ短調の第1楽章は劇的な減7度のオクターブ下降が始まります。この「ハ短調」って、まさにベートーヴェンなのです。第5交響曲の「運命」、ピアノ・ソナタ第



8番「悲愴」…などベートーヴェンの名曲にはハ短調が多いんです。作品1

のピアノ三重奏曲もハ短調です。きっと、ベートーヴェンにとってハ短調は、自分が表現したいものにピッタリの調性だったのでしょうね。32番も、そのハ短調で自在の展開をしていきます。第2楽章は、美しくシンプリなアリエッタ(歌を主題とする5つの変奏曲で綴られています。変奏が進むにつれ、それぞれの美が集約してゆき、高音域のトリル(注参照)が多用されます。その第2楽章のシンプリなハ長調の響きが美しいのです。ハ長調は音楽の基点です。ハ短調の第1楽章で始まり、第2

楽章のハ長調に向かうという展開には、ベートーヴェンの「苦悩から歓喜へ」という不屈の意志が非常に強く反映されていると思います。そこにおいて魂は高揚し、浮上し、さらなる高みへと繋がっていきます。ですから「永遠の命」なのです。

(注)トリル=音楽を感情豊かにするために付け加えられる装飾音の一種。ある音と、その隣の音を素早く交互に演奏します。語源は「鳥のさえずり」イタリア語です。

(取材・記事 大阪新音)  
\*インタビュー 2024年11月